AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度:

消化器外科病棟におけるストーマケア教育プログラムの効果と課題

〇上野直美[1)]　田中理佳[2)]　宮地実穂子[2)]　鈴木真紀[2)]　森谷美紀[2)]　北 瞳[2)]
小川碧友[2)]　小林咲月[2)]
旭川医科大学病院　1）看護部　2）6階東ナースステーション

【目的】
Ａ病棟のストーマ造設件数は年間80件以上で、スタッフはストーマケアを指導する機会が多い。しかしストーマケアは、患者個々で指導内容や装具選択が異なるため、ケア経験の少ないスタッフは、不安や苦手意識を抱きながらケアを実施している。今回、ストーマケアの知識・技術の標準化と、ストーマケアの質向上を目的に、ストーマケア教育プログラム（以下プログラム）を計画し実施した。アンケート結果から教育プログラム効果と今後の課題を明らかにする。

【方法】
本学会の「ストーマリハビリテーション基礎教育講習会用ＧＩＯ・ＳＢＯｓ」から必要な項目を選択し、プログラムは講義と演習から構成した。対象は、Ａ病棟に勤務する看護師39名とした。反復学習や講義に参加できないスタッフが講義内容を確認できるようにＤＶＤを作成した。実施後にミニテスト（80点以上を合格）とプログラム前後にアンケート（21項目に対する４段階評価と自由記載）を実施した。４段階評価は統計解析、自由記載は質的に分析した。研究者の所属する機関の倫理委員会による承認を得た。

【結果】
ミニテストの合格率は100％だった。アンケートの４段階評価は、プログラム実施前後で21項目のすべてに有意差を認めた。自由記載では、81個のコードから≪誰もが理解でき、継続可能なプログラム≫≪患者指導への自信≫≪実践力が強化された実感≫≪実践力の強化≫≪継続学習への意欲と希望≫≪個別性に応じた実践への不安≫の６個のカテゴリーが抽出された。

【考察】
プログラムは≪誰もが理解でき、継続可能なプログラム≫であり、スタッフは≪患者指導への自信≫≪実践力が強化された実感≫を得ることができたと考える。また演習は≪実践力の強化≫となっていた。今後は≪継続学習への意欲と希望≫がある一方で、≪個別性に応じた実践への不安≫があり、プログラムの継続が必要と考えられた。

【結論】
プログラムは、スタッフの新たな知識の獲得と強化となり、ケアに対する不安の軽減につながった。しかし、個別性に応じたストーマケアに不安を抱えているため、継続的な教育が必要である。今後は他病棟へのプログラム拡大が課題である。